

本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録

渡部晃平¹⁾・富沢 章²⁾・稲畑憲昭³⁾

1) 〒 920-2113 白山市八幡町戌3番地 石川県ふれあい昆虫館 (koutarouhigasi@yahoo.co.jp)

2) 〒 923-0911 小松市大川町 3-71

3) 〒 600-8238 京都市下京区御方紺屋町 3-206

New Record of *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997 from Honshu, Japan

Kohei WATANABE, Akira TOMISAWA and Noriaki INAHATA

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997 (以下サメハダと記す) は、稲畑 (2016) により日本から記録されたゲンゴロウ科マルケシゲンゴロウ属の種で、国内では奄美大島、沖縄島、石垣島、西表島、与那国島に分布する。本州には、本種に類似する種としてマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp (以下マルケシと記す) とコマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky (以下コマルケシと記す) が分布しており (森・北山, 2002), 稲畑 (2016) は、過去の記録の中に体型が類似するマルケシやコマルケシと本種が混同されている可能性を示唆していた。筆者らは、石川県産のマルケシゲンゴロウ属の標本を檢視した結果、石川県産の標本から多数の本種が確認されたため、本州初記録として報告する。併せて、マルケシとして発表済の石川県内の記録を下記の通り訂正する。

報告に先立ち、原稿をご校閲いただいた愛媛大学ミュージアムの吉富博之准教授に御礼申し上げる。

採集記録：1ex., 石川県加賀市片野町 鴨池, 18. VIII. 1996, 富沢章採集；1ex., 石川県輪島市舳倉

島, 9. V. 2009, 富沢章採集；2exs., 石川県津幡町 河北潟, 30. V. 2012, 富沢章採集；17exs., 同所, 2. V. 2016, 渡部晃平採集 (図1)；1ex., 石川県加賀市熊坂町, 10. VI. 2007, 富沢章採集；6exs., 同所, 23. V. 2008, 富沢章採集；2exs., 同所, 17. IX. 2014, 富沢章採集；1ex., 石川県加賀市橋立町, 7. XI. 2015, 渡部晃平採集。

比較標本：2exs., 鹿児島県大島郡龍郷町秋名, 10. IX. 2009；6exs., 同所, 13. IX. 2009；2exs., 同所, 14. IX. 2009. 3exs., 鹿児島県大島郡龍郷町大勝, 15. IX. 2009, 以上すべて渡部晃平採集。

採集記録のうち、加賀市片野町 鴨池 (鴨池昆虫調査研究会ほか, 1997), 加賀市熊坂町 (富沢, 2008), 輪島市舳倉島 (富沢ほか, 2011), 津幡町 河北潟 (富沢, 2013) の記録は過去にマルケシとして報告済であるが、本種の記録として訂正する。

同定の大半は稲畑、一部を渡部が行い、稲畑



図1. 石川県産サメハダマルケシゲンゴロウ。

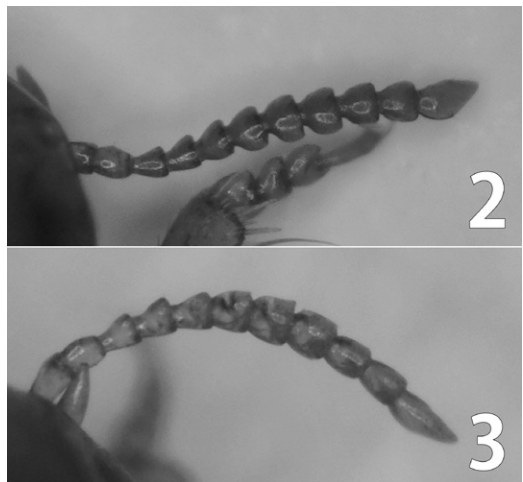


図2-3. 石川県産と南西諸島産の形態的差異. 2, 石川県産のオス触角；3, 奄美大島産のオス触角。

(2016) に示された類似種との区別点に基づき、オスの触角、オスの交尾器、オスの後基節の隆起線列、前胸腹板突起の形状を確認した。

南西諸島産の個体との比較により、石川県産の個体には若干の形態的な差異が見られた。形態的な差異が確認されたのは、オスの触角および前翅の光沢で、触角は、石川県産の個体では南西諸島産より顕著に肥大(図2, 3)。前翅は、石川県産の個体において光沢が強い傾向が見られた。一方で、オスの交尾器、オスの後基節の隆起線列、前胸腹板突起の形状は南西諸島産の個体との間に大きな差が見られなかった。以上の検視結果から、いくらかの形態差が認められるものの、石川県産の個体群もサメハダと同種であると判断した。

今回検視した石川県産のマルケシと同定されていた標本の中にマルケシは確認されず、全ての個体がサメハダであった。県内産の全ての産地の標本を確認できてはいないが、既知記録の大半が本種であったことは特筆すべき点である。

本報告により、南西諸島だけではなく本州にも本種が分布することが明らかになった。これまで記録されていた南西諸島から大きく離れた石川県で本種が記録されたことから、本州産、四国産、九州産のマルケシの記録についても再検討する必要があると考えられる。また、マルケシおよびコ

マルケシは、「環境省版レッドデータブック」では準絶滅危惧 (NT) に選定されており(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015), この情報源には本種の記録も含まれている可能性がある。これら2種と同様に、本種も希少種である可能性が考えられる。以上のことから、今後の課題として、本種の形態に関して変異幅を明らかにすること、3種の正確な分布情報の蓄積が望まれる。

引用文献

- 稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.
- 鴨池昆虫調査研究会・財団法人日本野鳥の会国際センター・財団法人サンクチュアリセンター, 1997. 片野鴨池昆虫調査報告書. 25pp. 財団法人日本野鳥の会.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック 2014 — 日本の絶滅のおそれのある野生生物 — 5 昆虫類. 509pp. 株式会社ぎょうせい.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版.
- 富沢 章, 2008. 加賀南部の水生昆虫 I. 小松市立博物館研究紀要, (44): 1-12.
- 富沢 章・吉道俊一・中田勝之, 2011. 舩倉島・七ツ島の昆虫相. 能登 舩倉島・七ツ島の自然環境 (2008 ~ 2010 年), pp. 197-223. 舩倉島・七ツ島自然環境調査団.
- 富沢 章, 2013. 2012 年における河北潟の水生昆虫調査結果. 河北潟総合研究, (16): 1-6.

(2016年6月4日受領, 2016年9月4日受理)

【短報】福岡県大牟田市でヨツモンカメノコハムシを確認

ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg) は、1990年代後半から本州、四国、九州での分布拡大が著しく、九州でも各県に広がっている。福岡県ではすでに広域で記録されているものの、その記録は北部に集中していた(小林, 2013, 2014)が、近年になって南部に分布を拡大している

と考えられる。筆者は、これまで記録がなかった福岡県南部の大牟田市において本種の生息を確認したので記録する。いっぽう、福岡県の南にある熊本県からは清水(2011)により既に生息が確認されている。

成虫(約70個体)、蛹(約10個体)、幼虫(約10個体)、大牟田市橘および大牟田市甘木, 2. I. 2016, 吉富博之採集。

両地点は500mほど離れており、いずれでもノ



図1-2. ヨツモンカメノコハムシ. 1, 加害状況; 2, 蛹.